経済産業省

ヒアリングのポイント

2024年11月８日

資源エネルギー庁資源・燃料部

燃料環境適合利用推進課　CCS政策室

今後の議論の進め方

- 前回は、海外支援制度の紹介や関係者からのヒアリングを通じて、CCSを巡る事業環境の確認いただいた。
- 本日は、前回に続き、関係者からのヒアリングを行うとともに、我が国においてCCS支援制度を検討するに当たって考慮すべき基本的な論点について、ご議論いただきたい。

海外支援制度の分析・先進的CCS事業を通じた課題分析（事業者からのヒアリング）

↓

先進的CCS事業を通じた課題分析（事業者からのヒアリングの続き）

CCS支援制度において考慮すべき基本的論点の抽出

↓

CCS支援制度のたたき台について議論

↓

CCS支援制度の詳細設計開始（年明け以降は、実務レベルでの議論を検討）

↓

CCS支援制度のとりまとめ

※今後の議論の方向性次第で変更の可能性あり。

本日のヒアリングのポイント

- 本日は、先進的CCS事業を通じて見えてきた課題や今後の展望について、事業概要と合わせて特に下記の点中心にプレゼンいただく予定。
  - ✓ ビジネスモデル上のリスク分析と当リスクの対応策
  - ✓ コスト削減の方法と見通し
  - ✓ 分離回収量、輸送量、貯留量の拡張可能性
  - ✓ E＆P・貯留事業者として先進CCS事業に参画することで得られるビジネス機会（国内外でのCCS事業におけるE＆P・貯留事業参画、海外権益獲得）

- 上記を踏まえ、本日は下記の観点からCCSを巡る事業環境の確認や課題の分析をお願いしたい。
  - ① **<u>CCS事業の実施にあたっては様々なリスクが存在するが、支援制度を検討するに当たって政策的に対応すべきはどういったリスクか</u>**。
  - ② **<u>事業者によるコスト削減に向けた取組を促す仕組みについて、支援制度にどう取り入れるか</u>**。
  - ③ GX分野別専門家WG資料（第6回カーボンマネジメント小委員会資料３、8ページ）には「日本企業が分離回収、輸送、貯留の各段階で、各国のCCS事業の受注で優位に立つ状態を目指す。」とあるが、特に、海外貯留案件でこうしたことを実現するには、どのような取組が必要か。